

Q 今年、流行している「風疹」ってなんだろう？

- 今年の「風疹」はどうして問題なの？ -



A 「風疹」は、患者の唾液などに含まれる「風疹ウイルス」が体内に入ると、発熱や体中に発疹が起こる病気です。普通は特別な治療をしなくても、自分の免疫力でウイルスを退治して回復します。

初めて「風疹」に感染すると「風疹ウイルス」に対する特別な免疫（抗体）が作られるので、基本的には再度感染することはありません。「風疹ワクチン」は「風疹」を発症しなくても「風疹ウイルス」の免疫を体内に作らせることで「風疹」を予防します。

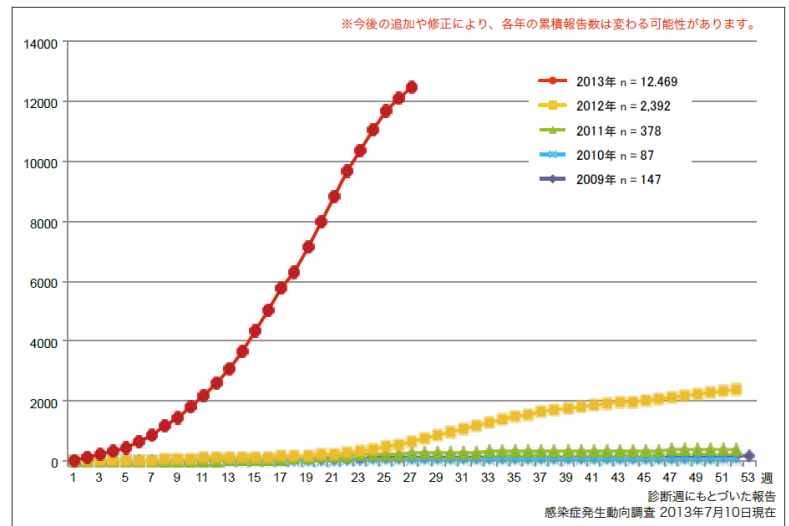
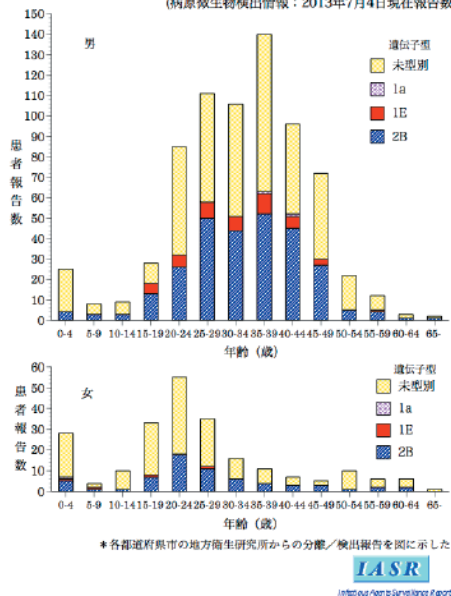
風疹は子ども中心の病気であり、幼稚園や小学校で流行することがあったので、「風疹ワクチン」と「麻疹（はしか）ワクチン」の混合ワクチン（MR ワクチン）を、1歳と小学校入学前の2回、受けることが推奨されています。そのおかげで、現在では、2歳以上の小児の90%以上が風疹の抗体を持っています。

今年の風疹患者の特徴は、20代～40代男性が中心だということです。この世代の男性には子供の頃に風疹ワクチンの定期接種や集団接種の機会がなかったため、抗体を持っている人の割合が80%以下しかなく、他の世代の男性や同世代の女性に比べて低いためだと考えられています。

風疹の一番の問題は、妊娠初期の女性が風疹を発症すると胎児に感染し、生まれてきた赤ちゃんに「先天性風疹症候群」という心臓の障害や難聴、白内障、精神遅滞などの重篤な障害を引き起こす可能性がある点です。従って、現在は妊娠を希望する女性や、妊婦の夫で風疹ウイルスの抗体を持たない人を対象に、優先的に風疹ワクチンの接種を推奨しています。

今年の流行で、風疹ワクチンの不足が予想されます。地域の保健所や病院の指示に従って、本当に必要な人から優先的にワクチンを受けることができるよう、ご協力をお願いいたします。

風疹ウイルス分離・検出例の性別年齢分布、2012年第1週～2013年第27週
(病原微生物検出情報：2013年7月4日現在報告数)



風しん累積報告数の推移 2009～2013年（第1～27週）

参照 URL ; NIID 国立感染症研究所ホームページ

(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html>)

(回答者：感染制御薬学 石野敬子)